令和4年度 学校評価総括表

奈良育英中学校・高等学校

教育目標	**「持続可能な開発のための社会づくりの担い手を育てる」**　スローガン 「励まし合い、競い合い、高め合い」 【重点項目】 1 人権尊重の精神を基調として，規律と責任を重んじ，喜びや悲しみを共有できる生徒を育成する。 2 自主・自立的な姿勢や態度を研き、高い志を持って学業のみならず，全てのことに全力を尽くす生徒を育成する。 3 文化・スポーツ活動に積極的に参加し、組織の一員であることを自覚するとともに、自己の可能性を最大限に発揮する実行力のある生徒を育成する。 4 ユネスコスクール・キャンディデート校として、ESDを推進するとともに地域の方々と協働し，「地域と共にある学校づくり」を目指し，社会に貢献できる生徒を育成する。

部	評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 （評価結果の分析）	改善方策等
総務部	式典などの厳格化と刊行物の充実化 学校を取り巻く団体等との関係構築	式典の厳格化と刊行物の充実	・式典において，丁寧な実施計画策定と生徒の式典に対する意識付けの徹底 ・刊行物の企画・編集・校正等の問題点の改善	B	B	今年度も、感染症問題で式典等が基本的にLIVE配信を利用する形となった。校外の大きなホールを借りる等の手法も検討すべきであった。	感染症への対応に関する指針変更を受け、式典等は、早期に実施計画策定し、厳格な式典を実施出来る様に取り組む。
		校務分掌間の連携強化	・学内の組織改革から，校務分掌間の報告・連絡・相談の徹底と連携強化	B		ICTを利用した会議が行える環境と職員の意識改革が進んだ。更なる有効活用を行いながら、空いた時間を有効に活用し、問題点の改善に繋がる環境作りを進める。	ICT環境の利用において、担当者の過重を避け、設備等を共有化して複数の担当職員が関わる環境作りを行う。
		育英会・同窓会・近隣地域等との連携強化	・学校を支えて頂いている各種団体・組織との連携 ・地域に関わることで，より良い教育環境の構築化促進	B		育英会・同窓会との連携は推進出来ているが、近隣地域との連携は十分出来なかった。	突然、自然災害等の発生があるかも知れないので、近隣地域との連携を深め、緊急時に備える様々な取り組みを検討する。
教務部	本校の教育目標に基づく教育活動の円滑な運営	新教育課程の編成	・時代のニーズを先取りし，建学の精神や教育目標に沿った本校にふさわしい教育課程の編成 ・編成した教育課程の修正や改善についての検証	B		2023年度在校生の教育課程の修正と2023年入学生の3年間の教育課程編成を完了することができた。	編成した教育課程の修正や改善について引き続き検証する。
		新学習指導要領が求める人材育成を踏まえた授業への改善	・主体的・対話的で深い学びの実現及びESDの視点に立った教育に向けての授業改善 ・上記の実現に向けた校内外での研修の推奨及び情報の共有 ・ICTを利活用した授業実践の推進	B		・教科主任等の本校を代表する教員が県教委や教科研究会等の主催する研修会に積極的に参加することができた。 ・深い学びの実現ならびに授業改善の一助としてICTの利活用を進めることができた。	教員間で授業改善の取り組みについての情報を共有したり，各教科で相互に助言したりして，校内研修等の充実を図る。
		指導と評価の一体化を目指した評価方法の充実	・学習評価を通じた学習指導の在り方の見直しや個に応じた指導の充実 ・きめの細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着 ・学習指導要領に示す目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価の確実な実施	A		・日々の授業や夏期・冬期休業中の補習・追試験体制により、生徒一人一人への学習指導を充実させ、学習を確実に定着させることができた。 ・高校での観点別学習状況の評価を確実に実施することができた。	・観点別学習状況評価の基準の修正や改善について引き続き検証する。 ・学習評価を通じた学習指導の在り方について、引き続き充実を図る。
進路指導部	「進路保証」体制の強化	キャリア教育の強化	・「進路シラバス」の策定 ・各コースの状況に応じた進路行事の策定および実施	B	B	高3学校別進路ガイダンスや高2SDGs大学ゼミ、高1大学見学会や中学体験合宿など、滞りなく実施することができ、進路に関する意識の向上に貢献できた。	コロナ禍の状況にもよるが、今後も積極的に実施すべく企画・立案する。
		保護者との連携強化	・各種説明会（進路ガイダンス・出願説明会等）の充実 ・保護者向け説明会・講演会の充実	A		高3：5月、高1・2：6月・1月（コロナ禍により延期）の他、中学内部進学説明会も滞りなく実施できた。これにより、保護者向けの進学情報の提供を充実させることができた。	保護者向けの情報提供内容を精査し、より分かり易く効果的なイベントを模索する。
		指導体制の強化	・各コースとの連携強化 ・授業内容や小テスト内容の精査及び模試分析 ・進学補習・特別授業・学内予備校・模試分析会・学習合宿・キャリアガイダンス等のフォロー体制の充実	B		・1学期には外部講師を招聘して研修会を実施することができたが、コロナ禍の影響もあり小規模に留まった。 ・分析については各教科等で行った。学習合宿は数年ぶりに実施できた。	生徒・保護者の進路観を注視しながら、モチベーションアップと学力向上の両方を目的として、引き続き適切な指導を行う。
生徒指導部	励ましあい、競い合い、高め合う心をもつ生徒を育成するための適切な指導と支援	生徒が自ら自己実現を図っていくための自己指導能力の育成	・時間を守ることの重要性への理解と，意識・行動面への定着（予鈴準備） ・理由のない遅刻削減の為，生徒・担任との情報共有 ・モラルやマナーについて生徒会との啓発活動の推進	B	B	・チャイムスタートは生徒にも定着しているが、メロディーやチャイムの音から行動を取る者が多いため、授業前が慌ただしい。 ・遅刻については、公共交通機関の遅延の頻度が高く、その都度、遅刻者の数が多かった。 ・登下校時についての苦情が年間通して報告された。	・メロディーやチャイムでの行動はもちろんだが、各自で時間管理ができるよう啓発していく。 ・日ごろから、始業ギリギリに登校すると、遅延などに対応しきれないので、余裕を持った行動を心掛けさせる。 ・登下校のマナーについて啓発を続ける。
		いじめのない学校づくり	・いじめ防止基本方針に基づく迅速かつ適切な情報共有 ・いじめ防止対策委員会を中心とした未然防止・早期発見・早期対応のための組織的な取組 ・いじめに関する職員研修の実施	B		・いじめアンケートを実施し、いじめ事象が確認されれば、速やかにいじめ問題対策委員会で協議した。 ・学年・学校として組織的に発見・対応はできているが、0件ではないため、未然防止には至っていない。	日々、生徒と関わっている担任・教科担当者との情報交換の徹底と、生徒が相談しやすい環境を作り、未然防止につとめる。
		生徒の夢の実現と，安心安全な学校生活のための支援の充実	・多様化する生徒に対応できる力を養う研修会の企画検討 ・情報モラルの醸成を図るための定期的な啓発 ・担任や教育相談担当との情報共有・生徒理解の充実	B		・今年は来年度にむけて、上靴の性別による色指定を廃止した。 ・教育相談関係の報告がタイムリー行えているので、情報共有が充実している。	・教員それぞれが、生徒の多様化に対して一定の知識と、情報交換を行っているので、研修会等は実施しなっかた。 ・教育相談の観点から保健安全部より発達障害についての研修会が実施された。
		不易と流行を意識し新たな知見を取り入れ，生徒のやる気の喚起と主体性の育成	・主体的に学校生活のルールを考えられる体制の構築 ・保護者の意見を集約できる機会の拡大 ・自治会や地域行政と積極的な連携 ・様々なニーズに応じたボランティア活動の推進	B		・ルールについて、生徒会がアンケートを実施するなど、自分たちで議論する機会が生まれた。またトイレの改善について学校側の意見を伺うなど、積極的な活動が出てきた。 ・奈良100人議会や地域ミライプロジェクト、船橋商店街活性化プロジェクトへの参加など、地域との協働も増えている。	生徒と学校（教員）側との意見交換できる場を作る。 地域との繋がりを大切にし、本校生徒を広く認知してもらう。
		生徒主体となる生徒会活動の展開	・生徒会・委員会が主体的に行事等を行えるような体制の構築（新しい生活様式を考慮） ・他校との交流を通して生徒会委員会活動の更なる活性化の推進	A		・大阪公立大学主催の学び合い交流会への参加など、大学や他高校との交流・意見交換を行い、委員会活動活性化のためのモデルづくりを行った。 ・来年度へむけて、委員会の再編成を検討した。 ・来年度菫咲祭（文化祭）の草案を生徒会で作成した。	・生徒会メンバーが他校との交流を通して、目指すべき自分たちの姿を確立し、積極的な活動に繋がるよう支援する。 ・充実した学校生活の一翼を担えるような、やりがいのある生徒会・委員会活動となるよう議論を進める。
国際文化部	自分とは異なる価値観を受け入れ理解しようとする心を育む教育活動の実現と関連部署との連携	グローバル教育事業の推進	・国内外の他校と交流事業の実施（ｵﾝﾗｲﾝ・ｵﾌﾗｲﾝを含む） ・教職員・保護者・生徒に向けた講演会や研修の実施 ・多様な文化的背景を持つ子供たちの受け入れ体制の構築 ・長短期留学・国内や海外研修の充実 ・海外連携校・姉妹校の拡大 ・アジア圏の留学生の受け入れ継続 ・グローバルな視野を養う研修会の実施（外務省講演等）	A	A	・台湾やニュージーランド・オーストラリアとオンライン交流が実施できた。 ・AFSで留学生を受け入れることができた。 ・外務省講演会や異文化理解教育講演会を実施できた。 ・国際理解Gコースではニュージーランド留学が3年ぶりに実施できた。 ・台湾との国際協働プレゼンテーション大会はオンラインとなったが途切れることなく実施できた。	・オンライン交流会の方法もわかってきたので、更なる交流の機会を増やしたい。オンラインよりも対面による交流の機会が増えるようにしてきいきたい。 ・来年度も留学生の受け入れが決定しているため、サポートしていきたい。 ・研修会の実施も引き続きやっていきたい。
		生徒主体となる文化活動の展開	・文化部の活動の場の拡大 ・菫咲祭や修学旅行等の文化的行事の充実と意味付け ・ユネスコ・キャンディデートとして国際的視点に立った活動の実施 ・地域に根差したボランティア活動の企画と実践	A		・昨年に引き続き、文化部の発表の機会やクリスマスコンサートの開催など生徒が活躍する場所が増えた。 ・菫咲祭では、生徒は様々な工夫を凝らし、一生懸命に盛り上げた。また文化行事は、梅田芸術劇場、劇団四季、宝塚歌劇、海外の留学生とのフィールドワーク等での鑑賞を事前学習を通じて知識を深めることができた。 ・「世界津波の日」2022高校生サミットin新潟に参加し，防災・減災の観点から国際協働について、生徒が主体的に考え、行動した。 ・ユネスコスクールの加盟継続条件である「国連の定める記念日(国連デー)を年2回以上祈念すること」を達成した。(世界津波の日、国際女性デー) ・奈良県立大学と協働的に船橋地域の活性化について生徒が主体的に考え、そのアイデアを自習室の運営という形で実行した。 ・中学2年生が里山地域の保全活動のため、募金活動や奈良市青少年野外活動センターでの自然再生活動を行った。 ・生徒がボルネオ島オンライン学習に参加し、ボルネオ島の環境問題と私たちの生活がどのように関連しているかを学び、自分たちにできることを考え、実行した。	・中庭コンサートやクリスマス礼拝・クリスマスコンサートといった行事が定着してきたので、出演者の増員や内容の充実を図りたい。 ・事前学習を含めた文化行事の開催は概ね好評を得ている。次年度はオペラ鑑賞となっているため、その教養を深められる事前学習を計画する。 ・生徒主体的な行動はごく一部の生徒の活動にとどまっている。この活動を学校全体の活動方針としていく必要がある。 ・国際的視点に立った活動や地域に根差した活動を実施しているものの、発進力が弱く本校生徒や教員、外部組織(地域や小・中学校等)への周知ができていない。
		図書・芸術教育の促進	・図書館の更なる充実とその教育的利用方法の検討 ・校内における芸術活動の企画と実施 ・充実した卒業文集の制作と発行	B		・図書館内の環境整備を図書委員と共に行った。新書架の入れ替え作業も進んでいる。 ・昨年度から引き続き、校内の各所に図書スペースを拡大した。利用者も増えて、憩いの場になっている。 ・卒業文集は生徒の声を集めたページを増刷した。	・読書推進教育の充実には課題がある。また、図書館刊行物が不定期となり、新着図書の情報が広報されなかった。来年度からは定期刊行とし、広報に努める。 ・卒業文集は学年の意向を反映し、より良い文集となるよう検討を重ねたい。
保健安全部	『命の教育』を意識した、講演会や研修会の計画や運営	生徒の実態把握と、心に寄り添った指導の展開	・教育相談および職員研修の充実 ・生徒が主体的に考え取り組むことのできる保健指導の実践や啓発	A	A	・教育相談において、担任、コーディネーター、カウンセラーの連携がしっかりと取れている。 ・緊急時や教育相談に関わる職員研修を実施する事ができた。	・教員間の情報共有 ・新しいテーマの職員研修の実施
		環境整備の徹底と美化意識の醸成	・環境美化について生徒が主体的に考え行動できる指導の実践や啓発	B		・清掃に対して責任もって取り組む生徒は多いが、日常での美化意識については個々に差がある。	・環境美化や身の回りの整理整頓につながるような啓発
		学校安全体制及び学校防犯・防災基盤の確立	・講習会・避難訓練を通して生徒の防災意識を醸成 ・緊急時に正しい判断と行動が取れる生徒の育成	A		・講習会の実施 ・避難訓練、防災学習	・講習会の検討 ・新しいパターンの避難訓練、防災学習 ・時期や社会情勢に沿った安全教育の実施
		生徒の主体性を引き出す体育活動の企画を進め、学校生活の活性化	・生徒会・委員会を中心とした体育行事の企画・運営 ・運動部が誇りとやりがいをもって取り組み、活力ある学校生活の推進	A		・新型コロナウイルス感染予防を考えながらさまざまな活動を取り組むことができた。 ・大学との連携を活かし、運動クラブ生対象の講習会を実施することができた。	・体育行事の内容の検討 ・運動クラブ生が充実できるような仕組み作りを検討
入試広報部	・奈良育英ブランドの確立と安定した入学生の獲得	奈良育英ブランドの確立	・HPでの積極的な教育活動の発信	A	A	定期的に、様々な活動を掲載できた。	継続して掲載するとともに、今後は各コースに関連するページにも改良を加える。
		定員充足率100%	・（高入試）専願率対前年増加	A		専願率対前年127%となり、専願者のみで、定員充足も目前となった。	継続して「行きたい学校」として選んでもらえるよう活動を続ける。
			・（中入試）行事参加者の対前年増加、トライアル(プレテスト)受験者の対前年増加	A		行事参加者(実数）対前年110%、トライアル受験者対前年144%となり、57名の入学者を得ることが出来た。	定員充足を目指す。
		広報活動の促進	・従来の方法にとらわれない、新たな広報活動の推進 ・生徒主体で学校の魅力を発信できる体制作りの推進 ・校内における研修会の実施	B		・新たな取り組みとして、高校オープンスクールにおいて、在校生・卒業生の保護者による座談会を実施し参加者から好評を得た。 ・生徒主体の広報活動、及び校内での広報研修会については未実施であった。	・引き続き、新たな広報スタイルの確立を目指す。 ・生徒主体の広報イベントについては、現在計画進行中のため、次年度の実現を目指す。 ・校内での広報研修会について、次年度の実施を目指す。

学校自己評価（4段階評価）　A：達成度が高い　B：概ね達成している　C：課題を残している　D：速やかな改善が必要である